





国際シンポジウム

# —世界のHPVワクチン被害は今—

 ハンマーで殴られるような激しい頭痛、関節や全身の痛み、不随意運動、脱力、視覚障害、睡眠障害、記憶障害や学習障害など、HPVワクチンの接種後に、多様な副反応症状が生じています。確立した治療法はなく、進学や就職の夢をあきらめなければならなくなった被害者も少なくありません。

 日本では2009年にサーバリックス、2011年にガーダシルが承認され、2017年8月末までに、約340万人が接種し、副反応疑い報告が3,130件、その半分以上が重篤です。重篤副反応報告の頻度は他の定期接種ワクチンと比較して圧倒的に高くなっています。

 HPVワクチンの副反応被害は、日本だけではなく世界で発生しています。被害者の多様な症状や、被害実態は日本と共通しています。被害者は被害者団体を結成し、救済を求めて活動をしています。

 本シンポジウムでは、コロンビア、スペイン、イギリス、アイルランドから、被害者団体で活動する方をゲストに迎え、HPVワクチンを取りまく各国の状況について報告を受け、問題の本質に迫ります。

2018年3月24日(土)午後1時半～ 東京大学武田ホール

同時通訳付です

ぜひお誘いあわせのうえご参加ください！